

平成 26 年度 環境改善に関する調査研究に係る外部評価について

課題：局地的な大気汚染地域の大気汚染の改善に関する調査研究

自動車 NO_x・PM 法に係る対策地域における NO₂ 環境基準確保の評価手法に関する調査研究調査研究株式会社数理計画

- ・対策必要レベルに係る推計条件に関して、二子局と市役所前局については、局舎の立地条件と周辺構造物の複雑度レベルの関係で、過小推計、或いは過大推計の恐れありということで、除外して関係性を求めているが、対策地域のある 8 都府県への汎用性も考慮すると、他地域についても適用して、常時監視測定局のデータとの関連性を確認する必要がある。（他地域での確認）
- ・平成 32 年度までに「対策地域において大気環境基準の確保」のためには、常時監視測定局以外（高濃度予測地点）の評価（データ）が必要であり、その対応についての方向性も検討されることに期待する。
- ・初年度の研究は問題地点の抽出手法の開発に焦点をおいた研究であるが、課題の目的は対策の評価手法の開発であることから、（複合的な）対策内容をふまえてその効果を評価できるか否かが重要である。「構造物等の影響要因」は大気環境レベルの推計上、重要との仮説に基づくもののようで、対策（群）との関係は明示されていない。想定する評価対象対策との関連を十分考えて次年度の研究を進めてほしい。
- ・調査目的に対し、本調査で採用した方法が考えられる方法に比較し適切であるのかが、明確でない。これまでに行われた研究の知見が、方法選択や具体的計算等にどの様に反映されているのかが不明である。
- ・ここで定義している大気環境レベルの数値的意味についてより具体的に説明し、そこに含まれる各因子の強度が、対象地点の NO₂ 濃度にどのように影響するかを示す必要がある。
- ・また、今後の有効な具体的対策に示すことが可能かどうかを検討し、さらに本手法が他者にも使えるものとするができるかどうかについても示されたい。
- ・高濃度出現地点の評価手法として有用な手法が構築されつつあると評価出来る。
- ・当初の年度目標は達成されていると考えられるが、計算例を増やす事により、精度の向上を期待したい。
- ・局地汚染の年間予測をモデル化する作業は順調に進んでいて、1 年度目の達成度は高いと思料される。NO_x 98% 値と指標化された大気環境レベルとの定量的な関係性が、モデル化の中で考慮した道路、周辺の建築物等によってどのように影響されるかをさらに検証して、汎用性のある一般モデルに発展するようさらに研究を進めてほしい。
- ・なお、周辺建物の複雑度をモデル化する手法においては、地上面における局地的な高濃度の目玉つぶしの視点だけが追求されているが、高層マンションが多く立地する都心部では、対策が進むうちに、いずれ立体方向の濃度分布が議論される（マンション何階が高濃度かなど）可能性がある。現行の自動車 NO_x・PM 法の実施においてはこの問題は捨象されているため、委託事業計画にこの視点を含めるには無理があるものの、立体方向の濃度分布の特性について基本的な論理の整理や、本事業のモデルにおける、地上濃度と中上空の濃度の取り扱いなどについて、定性的な評価でよいからコメントしておいてほしい。